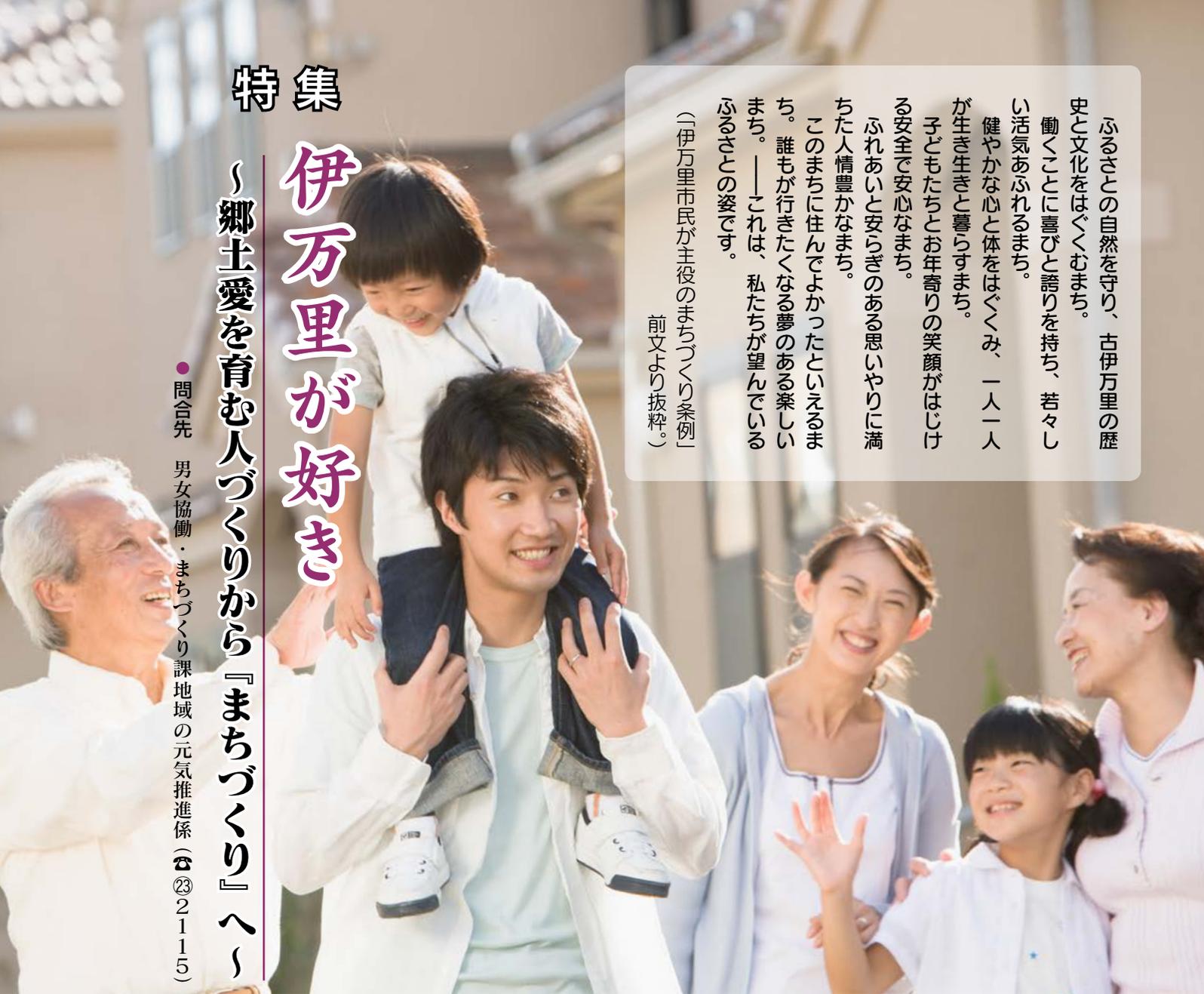


特集

伊万里が好き

「郷土愛を育む人づくりから『まちづくり』へ」

● 問合先 男女協働・まちづくり課地域の元気推進係（☎2115）



ふるさとの自然を守り、古伊万里の歴史と文化をはぐくむまち。
働くことに喜びと誇りを持ち、若々しい活気あふれるまち。
健やかな心と体をはぐくみ、一人一人が生き生きと暮らすまち。
子どもたちとお年寄りの笑顔がはじける安全で安心なまち。
ふれあいと安らぎのある思いやりに満ちた人情豊かなまち。
このまちに住んでよかったといえるまち。誰もが行きたくなる夢のある楽しいまち。——これは、私たちが望んでいるふるさとの姿です。

〔伊万里市民が主役のまちづくり条例〕
前文より抜粋。

平成18年、市は、『伊万里市民が主役のまちづくり条例』を制定しました。上記の前文は、その2年前に実施した市民アンケート『住みたいまち伊万里・行きたいまち伊万里』から、市民が望むまちの姿を表現しています。

このまちの姿からは、ふるさと伊万里を愛し、誇りに思う市民の姿と活気に満ちたまちの情景が見えてきます。このようなまちをめざして、市内ではさまざまな取り組みが進められ、その活動は年々広がっています。

今回の特集では、各種まちづくりへの取り組みを進めていく中で見えてきた課題や、その課題解決に向けた取り組みを紹介しながら、これからのまちづくりに大切なものは何かを考えます。

刻々と変化する社会情勢

少子・高齢化の進展や生活様式の変化、住民ニーズの多様化・高度化など、私たちが取り巻く環境や意識は急速に変化しています。そのすべてを行政だけで対応することが難しくなっている今、『自分たちのまちは自分たちの手で』という、**補完性の原則**（※）

に基づき、まちづくりを進めることが大切になってきます。

（※）**補完性の原則**とは、『住民が自らできることは住民が行う（自助）、住民ができないことは地域や市民団体などが行う（共助）、地域などでできないことは住民と行政が協働して行う（公助）』ことで、問題はより身近なところで解決するという考え方。

【表】地域の元気推進事業の取り組み

年度 町・地区	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
波多津、二里	計画 実践					計画		
牧島、立花、黒川、 東山代、山代	計画	実践				計画		
大坪、南波多、 大川		計画	実践				計画	
伊万里、大川内、 松浦			計画	実践				計画

市は、地域の課題はより身近な地域で解決するため、地域の元気推進事業を実施して

地域の課題は地域で解決する仕組みです

見えてきた

まちづくりの課題

まちづくりを進めるためには、地域における課題を地域全体で共有した上で、その解決策を考えていく必要があります。

います【表】。これは、市内全13町・地区でまちづくり運営協議会を組織し、各町・地区公民館を拠点にまちづくりを行うものです。『まちづくり計画』を策定（5年ごとに見直しを行う）し、これに基づき、各種事業に取り組みます。事業開始から平成27年度で、すべての地区が区切りの5年（～8年）を迎えます。

住民の声を計画に反映

協議会は、まちづくり計画を策定するに当たり、地域の課題を明確にするため、住民アンケートを実施しています。これによって、地域の課題が明らかになり、その課題を地域で共有し、議論を深めます。この議論を踏まえて課題解決に向けた事業を計画に盛り込みます。

地域にはどのような課題が

協議会によって、アンケートの項目や、結果の順位が多少異なりますが、主な課題などはおおむね共通する部分があります。

『困っていること・不安に思っていること』は、①老後の生活、②自分（家族）の健康、③交通手段の確保。

『取り組みべき課題』は、①一人暮らし高齢者などの福祉に関すること、②子どもや高齢者が生き生きと暮らせること、③子どもが心身ともに健康やかに育つ環境づくり。

このほか、介護に関することや伝統文化の継承など、少子・高齢化に起因すると考えられるものもありました。

どういった住み続けたい

このような課題がある一方で、「このまちが好き」、「住み続けたい」と回答した人が、ほとんどの協議会で過半数を占めています。

もっと深刻な課題が

このほか、アンケートの結果とは別に、すべての協議会

まちづくりの担い手の育成が急務

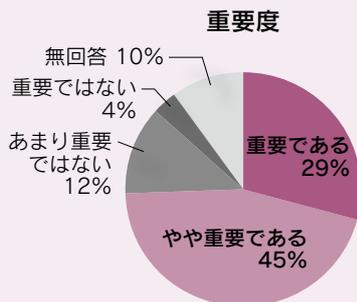
平成25年、市総合計画を策定する際に実施した市民の意識調査の中から、市民のまちづくりの担い手に関する結果を見てみます。

【質問】今後のまちづくりにおいて、『まちづくりの担い手の育成』が重要か

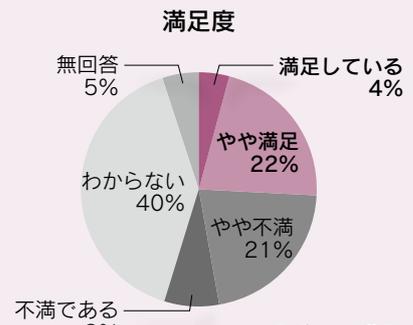
【回答】「重要である(29%)」・「やや重要である(45%)」と回答した人は、7割を超えており、多くの人が重要だと考えています【グラフ①】。

【質問】『まちづくりの担い手の育成』の取り組みに満足しているか

【回答】「満足している(4%)」・「やや満足している(22%)」と回答した人は、3割未満にとどまっています【グラフ②】。



【グラフ①】



【グラフ②】

課題を解決するために

この2つは、人にかかわる課題であるため、地域を知る取り組みを通して担い手を育成している協議会もあります。

次のページでは、伊万里地区や松浦町などの取り組みを紹介します。

郷土愛で支える

元気なまちづくり

地域やまちづくり団体では、いろいろな思いでアイデアを出しながら、自分の住む地域の課題解決や地域を知るための取り組みが進められています。

伊万里地区の取り組み

インタビュー



伊万里地区まちづくり
運営協議会
会長 安並 勇さん

伊万里地区には、商業を中心とした中心市街地や周辺住宅地などがあり、まちづくりの課題も多岐にわたります。



↑ 出演者や参観者たちとの交流が深まった第2回合同コンサート

このため、住民の一体感をつくるための事業や地域を知るための事業を実施しています。

世代を超えた交流

学校などと連携して

合同コンサート

地区内にある保育園や小・中学校、高等学校が合同でコンサートを開催しています。音楽のまちを地区内外にアピールするとともに、地域住民と園・学校とのふれあいや交流が生まれています。

地域の歴史と文化を学ぶ

まちづくり団体と連携して

ウォーキング大会

観光ボランティアガイドの会と連携してウォーキング大会を開催しています。地区内の歴史的な名所や旧跡を巡り、地域を知ることによって郷土愛の育成にもつながっています。

松浦町の取り組み

インタビュー



松浦町まちづくり
運営協議会
会長 岩橋 勝隆さん

地域資源を活用

『馬ノ頭』水利施設を

町の観光資源に

松浦町では、馬ノ頭水利施設を観光資源の一つとして活用するための取り組みを進めています。平成25年に案内看板を設置し、歴史探訪会などを開催しました。

ガイドの育成が急務

勉強会などで後継者育成

説明ガイドの後継者を育成するため、今後、勉強会などを開催します。

幼少期からの教育

町誌や散策マップを活用



↑平成24年『土木学会選奨土木遺産』に認定され、翌年設置した案内看板

町誌を活用した散策マップを作成し、小学校の教材として活用してもらっています。多くの町民が歴史・文化に触れる機会をつくり、幼少期からの郷土愛を育む取り組みを実践しています。



↑説明ガイドの後継者を育てるための現地での勉強会

インタビュー

伊万里市観光
ボランティアガイドの会
会長 藤瀬 熊喜さん



私たちは、主に観光客を対象に活動しています。このほか、伊万里の伝統や文化を、市民、特に子どもたちに伝えるため、親子を含めた『お宝めぐりバスツアー』、『森永太郎翁 ゆかりの地 史跡めぐりツアー』など、郷土を誇りに思う心を育てる事業にも力を入れています。しかし、会員の多くは70歳代で、次を担う人材の確保が課題です。

伊万里が好きだから 私たちも活動しています

インタビュー

特定非営利活動法人
まちづくり伊萬里
副理事長 早田 文昭さん



私たちは、『まちなか』にぎわいを取り戻したいという思いで結成しました。そのために、伊萬里まちなか一番館を核としたイベントなどの企画・実行・支援を行っています。また、将来の伊万里を担う人材の育成が必要だと感じ、伊万里をより深く知ってもらうため、コンシェルジェ検定の実施や、学校に講師を派遣して、郷土愛を育成する取り組みも進めています。

※ネットで受けられる『伊万里コンシェルジェ検定』
Web版 <http://imari-sarukikata.com/kentei/>
または、『伊万里検定』で検索

人づくりから

まちづくりへ

人づくりは、まちづくりに欠かせない取り組みです。このため、市でも、人づくりにつながる実践的な人材育成研修や郷土のことを学ぶ取り組みを進めています。

次代をつくる人材を育てる

市では、平成2年度から、まちづくりのリーダーとなる人材を育成するため、各種研修事業に取り組んでいます【表】。これは、まちづくりに関するさまざまな研修に市民

【表】人材育成研修参加者（平成26年度までの実績）

研修項目	実施年度・事業名	参加延べ人数(人)
国内研修	平成3～平成23・平成25年度	237
海外研修	平成2～平成11・平成14年度 グローバル伊万里海外研修派遣事業	81
	平成24・26年度 次代を創る海外研修事業	15
合計		333

を派遣し、個人のスキルアップを図ることで、まちづくりの担い手を育成するものです。実施から25年が経過しますが、まちづくりを担うリーダーも年齢を重ね、世代交代していきます。まちづくりの担い手の確保は、今後も継続して進める必要があります。

伊万里を知る取り組み

また、平成5年度から『伊万里塾』に取り組み、町・地区単位での歴史や文化を学ぶ郷土学の学習を通して、人づくりにつなげています。さらに、子どもたちへ郷土学などの学習の機会を提供することで、伊万里への誇りや郷土愛にあふれた、将来を担う人材を育成するために『子ども伊万里塾』の開催を計画しています。

参加者の声を聞きました

伊万里のすばらしさを再発見



次代を創る海外研修
平成26年度 参加者

市丸 初美さん
(波多津町・56歳)

『地域資源を活用したまちづくり』をテーマに、ドイツ・フランスでの取り組みを学びました。私は食を通して伊万里の魅力を伝える活動を行っています。研修を通じ再発見できた伊万里の地域資源と食を結びつけ、伊万里ならではの食を生かした取り組みを進めていきたいと思っています。

学んだことを地域で実践中



国内研修
平成25年度 参加者

福母 秀一さん
(二里町・53歳)

『少子高齢社会のまちづくりの取り組み』の研修に参加しました。地域のつながりが薄くなり、『向こう三軒両隣』という言葉も失われつつあります。周囲に対する気づき、見守りなどの『おせっかい』こそ、今地域には必要です。住民がそのことに気づくためのきっかけづくりをしています。

伊万里のことをもっと知りたいな



『秋めぐり親子ミステリーバスツアー』参加者

松尾 晴・心・礼さん
(大坪小5・3・1年)

『秋めぐり親子ミステリーバスツアー』にお母さんと一緒に参加しました。観光ボランティアガイドの会の人から、伊万里のいろんなことを教えてもらいました。知らないことがたくさんあって、伊万里に住んでいることがうれしくなりました。伊万里のことをもっと知りたいです。

地域を知れば好きになる。
まちづくりはそこから始まります

私は、市民が提案するまちづくり事業の審査にかかわってきました。その中で思うのは、提案者の皆さんは、まちのことを理解し、まちの課題に気づいている、そして伊万里が大好きな『人』だということです。

私の住む大川内町でも、さまざまなまちづくりが展開されています。とりわけ、学校と地域が連携して開催するサマースクールは、地域全員が『地域の子どもは地域で育てる』という共通認識のもと、地域を知り、地域を思う『人』を生かした地域一帯となった取り組みです。

このような取り組みにかかわる中で実感するのが、団体や地域に限らず、まちづくりに必要なのは、地域を知り、地域が大好きなリーダーの存在です。そして、その活動に賛同して支える『人』たちです。

まちづくりは、一人一人が地域を知り、そして好きになることから始まります。あなたも身近な地域や団体で、できることから始めてみませんか。



市民まちづくり推進会議
会長 小野原 保子さん